

学科 学年	1 学年 全組	科目 分類	生物学 Biology	講義 必修	H25年度 前後期 1履修単位	学習教育 目標 2	担当	吉田 進 Susumu Yoshida
概 要	現代の生命科学の進歩は、医療をはじめ、人類の福祉に多くの貢献をしている反面、人間自らの手で「生命を操る」ようになったことから、倫理的に問題を生じている。それゆえ、正しい生命観を持つことはきわめて大切である。それゆえ、人間を含めた生態系に対して謙虚に向き合う姿勢を養う。							
科目目標 (到達目標)	細胞の構造と機能、代謝、人体生理、遺伝、などを通してヒトと他の生物との共通点と相違点を学び、さらに現代医学は何を目指しているかについても学習する。							
教科書 器材等	教科書・新編生物基礎（東京書籍） 問題集・レッツトライノート生物基礎（東京書籍） 参考教材・生物図録(数研)							
評価の基準と 方法	定期テスト(中間および期末)80%、ノートのまとめおよび課題の提出を20%として総合100点満点で評価する。また、授業に対する取り組みの姿勢も評価の対象とする。							
関連科目								
授業計画								
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)						
第 1回		生物の特徴 細胞の機能 細胞膜と水の浸透						
第 2回		生命活動とエネルギー 生命活動を支える代謝						
第 3回		生体内のエネルギー変換						
第 4回		遺伝子とその働き DNAの構造						
第 5回		細胞分裂とDNA						
第 6回		DNAの正確な複製						
第 7回		DNAとヒトゲノム						
		中間試験						
第 8回		中間試験の返却と解説 DNAとタンパク質合成						
第 9回		内部環境 循環系						
第 10回		内部環境 自律神経						
第 11回		内部環境 内分泌系						
第 12回		免疫のシステム						
第 13回		免疫とヒト						
第 14回		生態系における植物の役割						
第 15回		生態系とその保全						
		期末試験						
オフィス アワー								
授業アンケート への対応	授業時にはかなりの板書量になるとおもわれる。理系実験とそれに伴うレポート作成には、実験結果の克明な記入が不可欠であり、そのことを意識した授業にしたい。							
備 考								
更新履歴	2013/3/22 更新							